

古墳築造で追い立てられたムラ

藤原町の富士見工業団地周辺に広がっていた若小玉古墳群は、市内では埼玉古墳群に次ぐ規模を誇っていた古墳群です。現存する古墳は、関東の石舞台と呼ばれる八幡山古墳と、東日本最古の線刻壁面が残る地蔵塚古墳だけですが、かつては墳長約70メートルの大型前方後円墳である三方塚古墳・愛宕山古墳など、大小約50基もの古墳が存在していたことが発掘調査などで確認されています。



三方塚古墳(平成3年撮影)

左の写真は、(株)ショーワの工場建設に伴う発掘調査で検出された三方塚古墳です。墳丘は壊されて無くなっていきますが、周囲を巡る周溝は残っていて、前方後円墳の平面形がよく分かります。墳丘があった下からは、方形の竪穴住居跡が何軒も検出されています。これらの住居は、古墳が築かれる前に建てられていたものです。かつて集落

が営まれていた台地上の場所に、集落が営まれなくなってから古墳が築かれることは時折あります。ところがこの住居の中には、古墳とほぼ同時代の6世紀前半の住居もあり、古墳が築かれる直前までこの場所には集落があったことが分かりました。さらに(株)ショーワの東隣の関東いすゞ自動車(株)の工場敷地内からは、直後の6世紀中ごろの竪穴住居跡が多数検出されています。そして、同工場敷地の南半部では6世紀中ごろ以降の小円墳が、北半部では6世紀後半〜平安時代にかけての竪穴住居跡がそれぞれ多数検出されています。このことから若小玉古墳群は、集落(北大竹遺跡)のすぐ隣に築かれており、6世紀前半以降は集落を東へ北へと追いやりながら古墳を築いていったと考えられます。このように古墳群と集落が隣り合って長期間共存し、なおかつ集落を追いやりながら古墳群が範囲を拡大していくという様相は、非常に珍しい事例と思われま

す。新たな古墳が築かれるたびに、家が移転させられ、ムラの範囲も狭くなっていく、そんな古墳の築造を当時のムラの人々はどうのようないで見ていたのでしょうか。

(文化財保護課 中島洋一)

こぜに が with フラベス ちゃん行く!

そうこうぶくし かいかん 総合福祉会館「やすらぎの里」

今月は、平成11年のオープン以来、主に60歳以上の方や障害者の方に利用されている総合福祉会館「やすらぎの里」を紹介するよ。

館内には、年間を通して利用できる温水プールをはじめ機能回復訓練室、交流・創作室などいろいろな施設があって、体の機能回復や維持向上、利用者の憩いの場として活用されているよ。さらに、水泳や陶芸、料理教室をはじめ、三世代を対象にしたイベントなどもたくさん開催されているんだ。

やすらぎの里は身近な福祉施設として親しまれているから、ぜひ利用してくださいね。

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。



今月の表紙 1月11日、中央公民館第1・第2学習室(「みらい」内)で第28回行田市少年少女将棋大会が行われました。

この大会に市内の小・中学生72人が参加。小さな棋士たちは、対戦相手の二手・三手先を読みながら、慎重に駒を進めていました。また、他校の児童・生徒たちとの交流が図るだけでなく、礼儀作法も身に付けることができた有意義な大会となりました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をCD-Rに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい 植物油インキ 市報ぎょうだは再生紙を使用しています